

経営比較分析表（令和元年度決算）

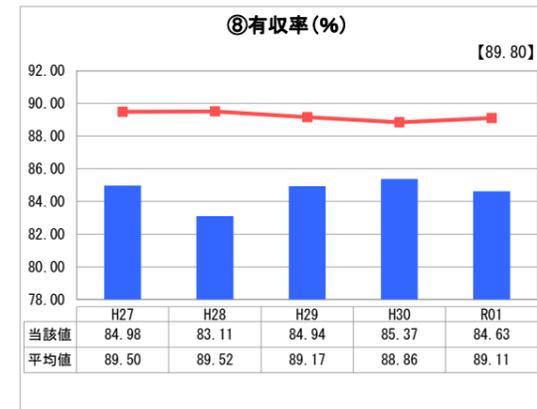
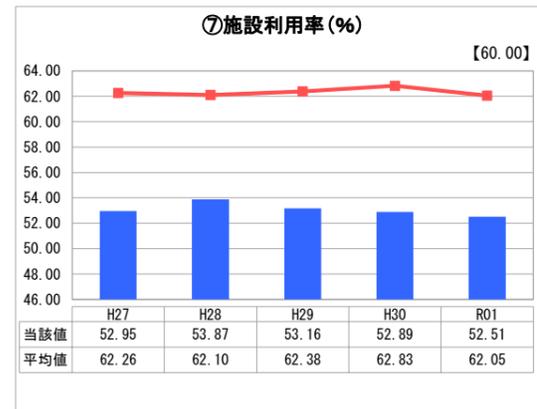
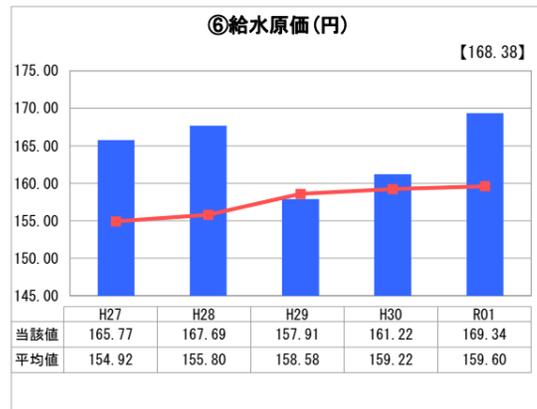
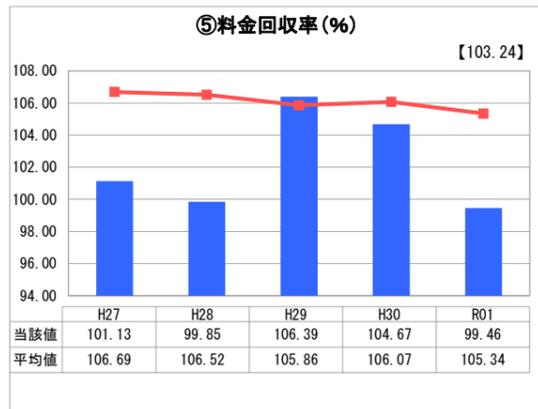
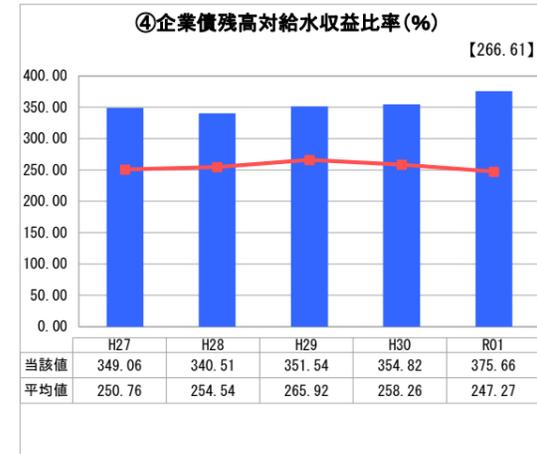
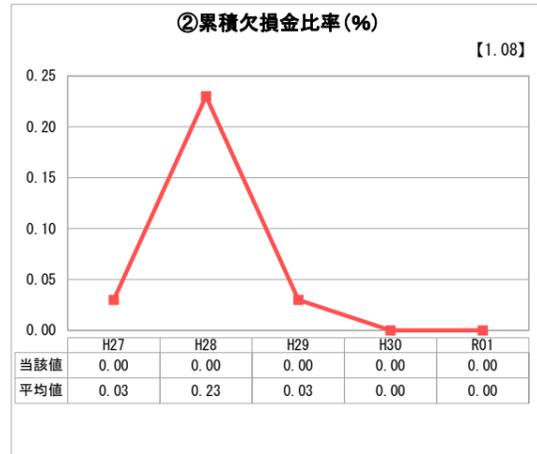
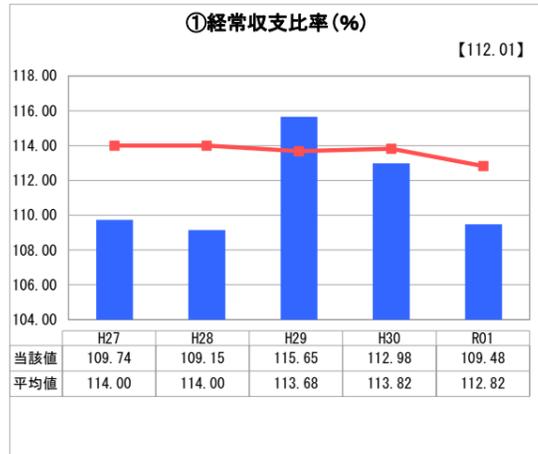
埼玉県 加須市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	55.94	99.92	3,080	

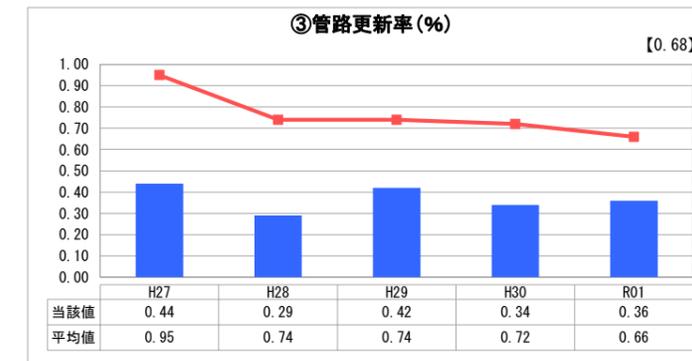
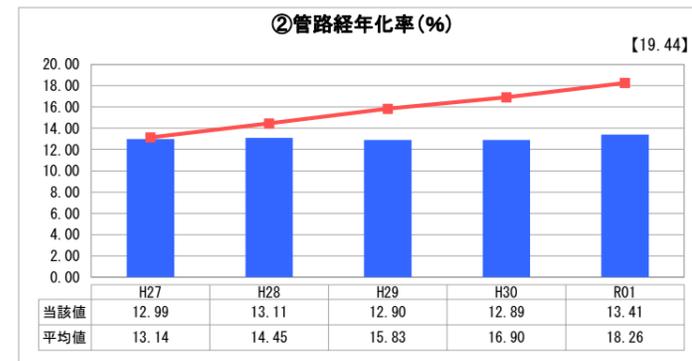
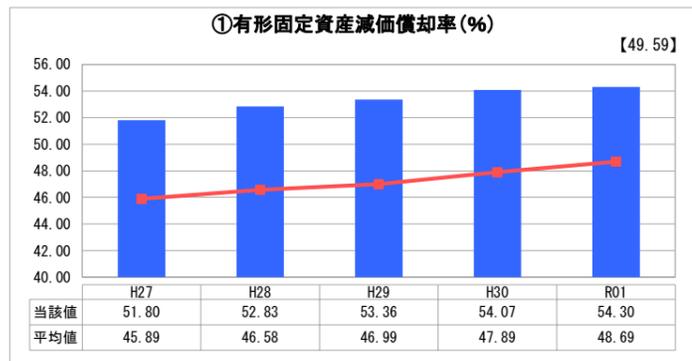
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
113,043	133.30	848.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
112,812	133.30	846.30

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率**
収益的収支の均衡を示す指標です。事業の効率的な運営に努めてきた結果、100%を超えて推移しており黒字経営を維持しています。
- 流動比率**
1年以内に支払う債務に対する支払能力を示す指標です。類似団体平均値を下回っていますが、継続して100%を超えており、かつ、十分な支払能力を有する200%の水準は確保されているため、短期的な債務に対する支払能力に問題はありませ
- 企業債残高対給水収益比率**
水道施設を建設する際の借入金残金の規模と水道料金収入との均衡を示す指標です。本比率の増加要因は、給水収益が減少し、設備投資（浄水場統廃合）費用の増加に伴い借入額が増加したことによるものですので、引き続き、今後の設備投資計画を踏まえ、適正な債務残高の圧縮に努めます。
- 料金回収率**
給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを表した指標です。料金回収率は、給水人口の減少に伴い給水収益が減少するとともに、給水に係る費用として、一時的に水道施設（浄水場・水道管漏水）の修繕や浄水場統廃合更新（耐震化）事業により新たに取得した固定資産の減価償却費等が増加したため、100%を下回り、給水に係る費用が給水収益（水道料金）で賄えていない状況となりましたので、滞納整理等による給水収益の確保及び経費の削減に努めます。
- 給水原価**
1mの水を作るのにどれだけの費用がかかるかを示す値で水道の製造原価です。今年度は、給水人口の減少等に伴い年間有収水量が減少した一方で、給水に係る費用が増加したため、前年度値及び類似団体平均値を超過しておりますので、引き続き、効率的な事業運営に努め経費の削減に努めます。
- 施設利用率**
水道施設の利用状況を示す指標です。施設利用率は53%程度で推移しておりますが、現在、実施している浄水場の統廃合（ダウンサイジング）により、施設規模の適正化を図ります。
- 有収率**
配水量に対する収益に繋がった水量の割合を示す指標です。前年度値及び類似団体平均を下回っているため、引き続き漏水調査や老朽管の更新等を実施し、有収率の向上を目指します。

2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率**
有形固定資産の減価償却の進捗度や資産の老朽化を示す指標です。経年経過ごとに増加しており、保有資産の老朽化が進行しています。
- 管路経年率**
法定耐用年数を超えた水道管の割合を示す指標です。類似団体平均値を下回っているものの、昭和40年代から50年代に布設された管路が多く、順次耐用年数を経過し更新時期を迎えるため、今後、管路経年率の上昇が見込まれます。
- 管路更新率**
全ての管路延長に対し、1年間に更新された水道管の割合を示す指標です。類似団体平均値を下回っています。今後も、設備投資（浄水場統廃合）の優先度や事業費の平準化及び財源の確保に配慮しながら、水道管の更新を行っていく予定です。

全体総括

現時点で経営の効率性、財務の健全性は概ね確保されているといえます。しかし、現在実施している浄水場の統廃合（ダウンサイジング）や水道管の老朽化に伴う更新に多額の費用が生じることから、企業債残高も増加する見込みです。そのため、一時的な経営の悪化が懸念されますが、費用対効果を含めて経費削減に努め、加須市水道ビジョンに掲げる基本理念「未来へつなぐ安心・安定 加須の水」の実現に向けて、健全経営に努めます。